

歴史文化財を守り継承していくために



深田 照明 議員
(21政会・加西ともて育つ会)



問 歴史文化基本構想と文化財の保存活用の取組について。

答 平成30年3月に策定した加西市歴史文化基本構想は、歴史文化遺産の保存活用に関する長期的な方向性を定めたマスタープランです。令和2年12月には、具体的な事業を計画するアクションプランとして、加西市文化財保存活用地域計画を策定し、いにしえより大切に受け継がれてきた地域の宝である歴史文化遺産を生かし、まちづくりや地域の活性化を推進しています。

問 歴史文化財調査数の推移について。

答 埋蔵文化財発掘調査数は令和元年度は確認調査6件、本発掘調査1件、2年度は確認調査6件、本発掘調査1件、3年度は確認調査4件、本発掘調査1件となっています。個人からの歴史資料（主に古文書）調査依頼数は令和元年度0件、2年度110件、3年度2,950件と大きく増加しています。これは家じまいの増加が大きな要因と考えています。

問 文化財を保存・活用する専門職員の配置体制は

答 歴史資料の調査依頼が増え、専門職員の育成とともに計画的な人員確保が必要となっています。今後も任用形態も含め適切な人員確保に努めます。

問 文化財の保存管理状況と歴史文化資料館建設について。

答 文化財の保存・展示は埋蔵文化財整理室で行っています。施設は老朽化が進み雨漏り等の修繕対応は年々増え、また保管庫としての温度・湿度管理設備はありませんが、保存環境の維持に努めています。

将来的には資料館建設を目指す考えはありますが、今は未来型児童館などの大型事業を進めている状況でもあり、財政的見通しや人員確保などの諸条件も含め、歴史文化資料館の建設・整備には総合的な検討が必要と考えています。

■その他の質問項目

- ・ サステナブル・ビジネスプランについて

公共交通（地域主体型交通）のこれから



北川 克則 議員
(令和新風加西)



問 富田地区で新たに地域主体型交通が導入されるが、その他の地区の状況は。

答 賀茂地区では令和3年10月に住民アンケートを実施し、ふるさと創造会議が中心となって導入を検討されています。また、九会地区では、市内の先行事例を含めた地域主体型交通の勉強会を実施される予定です。

問 地域主体型交通のニーズについて。

答 これまでに宇仁、日吉、富田、賀茂の4地区で住民ア

ンケートを実施されています。それぞれの地区の5～10%の方が移動に困られている状況で、そのうち病院や買物に行きたいという方が7～8割を占めています。

問 今後ますます公共交通の役割が大きくなると考えるが、今年度策定する加西市公共交通計画の理念や方針は。

答 (副市長) バスのネットワークや北条鉄道の行き違い施設整備など状況の変化を踏まえた上で、地域の方の取組に対して、利便性をどのように高めていくかが大事だと考えます。そのために、地域主体型交通をさらに充実させながら、市内連携軸との連携強化をどのように図るのがポイントになってきます。

同時に、次世代型モビリティやMaaSなど、公共交通の在り方自

体が年々変わっています。従来の公共交通の概念に縛られ過ぎず、様々な意見も参考にしながら、取り入れられるものは積極的に取り入れていきたいと考えます。

※ MaaS（マース：Mobility as a Service）とは、バス、電車、タクシー等あらゆる公共交通機関をITを用いて結び、人々が効率よく、かつ便利に使えるようにするシステム。

要望 市民の声に配慮した高齢者に親切な計画を策定していただきたい。あわせて、通院や買物利用の時間帯に特化した相互乗り入れを可能にし、移動人口の増加を推進していただきたい。

■その他の質問項目

- ・ 土地の利活用について
- ・ ふるさと納税について